次の文章は、『伊曾保物語』の一つの話である。読んで、あとの問いに答えなさい。

ある川の辺に、蟻遊ぶこと有りけり。俄に水かさまさりきて、かの蟻をさそひ流す。aうきぬしづみぬする所に、鳩、木末より1これを見て、あはれなる有様かな、と、木末を少しくい切りて、河の中に落としければ、蟻これに乗つて、なぎさに上がりぬ。

かかりける所、ある人、竿のさきにとりもちをつけて、鳩をささんとす。蟻、心にb思ふやう、2ただ今の恩を送らう物をと思ひ、人の足にしつかと喰ひ付きければ、3おびえあがつて、竿を4かしこに投げ捨て、（中略）しかるに鳩これをさとつて、いづくともなく飛び去りぬ。

そのごとく、人の恩をうけたらん者は、いか様にもそのcむくひをせばやと思ふ志を持つべし。

（『伊曾保物語』による）

（注）辺＝そば。俄に＝急に。水かさまさりきて＝川の水の量がふえてきて。さそひ流す＝さらって流す。木末＝こずえ。木の枝の先。なぎさ＝水ぎわ。乗つて＝乗って。かかりける所＝そうしているところに。とりもち＝鳥をつかまえるのに使う、ねばねばしたもの。ささんとす＝（竿の先で）つかまえようとする。しつかと＝しっかりと。しかるに＝そうして。さとつて＝さとって。気づいて。いづくともなく＝どこへともなく。うけたらん者＝受けた者。いか様にも＝なんとかして。せばや＝したい。

『伊曾保物語』について

ギリシャに伝わる「イソップ物語」を、日本のことばに訳した本。江戸時代の初めに出版され、多くの人に読まれた。動物などが登場する短い話の最後に、その話から引き出した教訓が書かれている。上の話は、「鳩と蟻」の話である。

【はじめの部分の現代語訳】ある川のそばで、蟻が遊んでいることがあった。急に川の水の量がふえてきて、その蟻をさらって流した。

古文を読むときの手順

①声に出して読む（歴史的仮名遣いは、今の読み方で）。例：にはか→にわか　こずゑ→こずえ　さそひ→さそい　さを→さお　いづく→いずく　②（注）を見ながら、だれが何をしたかを、話の順にたどる。③会話や心の中のことばの終わりの「と」をさがし、印をつける。④最後の「そのごとく」のあとから、教訓を読み取る。

問一 aうきぬしづみぬ、b思ふやう、cむくひを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

a

b

c

問二 4かしこの意味として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ここ　　イ　かしこい人　　ウ　あそこ　　エ　すぐに

問三 1これを見て、3おびえあがつての主語（だれの動作か）として最も適切なものを、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　蟻　　イ　鳩　　ウ　ある人

1

3

問四 鳩が蟻を見て思ったこと（「と」の前にあることば）を、本文中から九字で抜き出しなさい。

問五 2ただ今の恩を送らう物をとは、どういう意味か。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　今こそ、さっき助けてもらった恩を返そう。
イ　今の恩は、いつか返してもらおう。
ウ　すぐに、鳩にお礼の品物を送ろう。
エ　今は恩を返すことができない。

問六 この話の教訓として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人に親切にすれば、必ず自分が得をする。
イ　小さな者は、大きな者を助けることはできない。
ウ　困っている者を見ても、手を出さないほうがよい。
エ　人から恩を受けた者は、なんとかしてその恩を返そうとする気持ちを持つべきだ。

問七 蟻は、鳩からどのような恩を受け、どのようにその恩を返したか。四十字以上、五十字以内で書きなさい。

解答（答えと短い解き方）

歴史的仮名遣い 標準① 伊曾保物語を読む

本文の読解

問一 a　うきぬしずみぬ　　b　おもうよう　　c　むくい

「づ」→「ず」、語の頭以外の「ふ」→「う」、「やう」→「よう」、語の頭以外の「ひ」→「い」。

問二 ウ

古語の「かしこ」は「あそこ・あちら」という意味の、今は使わない語。

問三 1　イ　　3　ウ

1は直前に「鳩、木末より」とあるので鳩。3は足に食いつかれておどろいてとび上がった「ある人」。

問四 あはれなる有様かな

「と」の直前までが鳩の思ったこと。「かわいそうな様子だなあ」という意味。

問五 ア

「送らう」は「送ろう（返そう）」。「ただ今の恩」は、ついさっき鳩に助けてもらった恩。

問六 エ

最後の「そのごとく、人の恩をうけたらん者は……」が教訓。「むくひをせばや」は「恩返しをしたい」。

問七 （例）川に流されたとき、鳩が落とした木の枝で助けられ、鳩をねらう人の足に食いついて、鳩をにがした。

①流されているところを鳩が落とした枝で助けられた、②鳩をつかまえようとした人の足に食いついた、の二つ。